

まなびの広場
稲進会
教室通信

彩色 いろいろ

「褒め方」

「褒める」ことは、子供たちにたくさんの良い影響を与えます。意欲、セルフイメージ、モチベーションなどの向上につながります。ですが、画一的な方法で褒めるだけでは、その効果が薄れていくと共に、純粋な褒める気持ちも伝わらなくなります。今回はちょっとしたことを意識して褒めることで、受けての印象を変える4つの方法をご紹介します。

1. 具体的に褒める

例えば、レゴで製作した作品を見て褒めて上げる時、ただ「上手にできたねえ」とか「すごいねえ」と言うよりも「この部分のブロックの組み合わせ方が上手だねえ」とか「この部分の色合いがあざやかですごいねえ」と言ってあげた方が子供たちは嬉しく思います。それは自分の作品をちゃんと見てくれていることが伝わるからです。文字が上手になったことを褒めるのであれば、「ひらがなの『お』の字がとってもきれいに書けてるね」など。ぜひ具体的に細部を意識して褒めてあげてください。

2. 前回と比べる

具体性を高めるための方法として、“前回と比べる”ということが効果的です。

例えば計算の上達を褒めるのであれば、ただ「速くなったね」というよりも、「この前より30秒速くなったね」と言ってあげた方が、具体性が高まります。文章題であれば、「この前書いてなかった、図をちゃんと書いてるね」など。レゴの製作であれば「ここはこの前壊れやすかったのに今回は頑丈だね」と言った感じになります。

ここでは褒める側の観察力が大切です。これまでのお子さんの取り組みの様子を確認しておかないと比べることはできません。今回とこれまではどう違うのか、小さな成長でもちゃんと伝えてあげる、こうすることでお子さんにとって褒められることが新鮮なものであり続けます。

3. 褒め方に変化をつける

子供たちに違う印象を与えるために、少し雰囲気を変えて褒めるのも一つの方法です。例えば、作品を四方から無言でじっくりと見ながら静かに「いいね～」と言うとか、テストで成績が上がっていた「あなた、部活で忙しい中、本当に頑張ってるわね」と涙ぐみながら言うなど(´_`);、表現の仕方もそれこそ無数にあります。ぜひいろいろな表現の仕方を考えてみてください。

4. 「Iメッセージ」で褒める

褒められても子供たちに良い影響を与えないケースがあります。多くは、子供自身が納得していないことを褒められる場合です。例えば、テストの結果が自分の設定した目標に達していないとか、出来上がった作品が思い通りのものではない場合です。こうした時に効果的なのが、「Iメッセージ」を意識して褒めることです。

Iメッセージとは「あなたの頑張りを見ると私も頑張ろうと思う！」などと相手の行為によって**私がどう感じるか**を伝えるものです。それに対し「Youメッセージ」とは「あなたががんばったわね」とか「君はすごいよ」と言ったように褒める対象を**相手にだけ向けて**発したものです。

Iメッセージを用いると、子供が自分の行動にどれだけ価値のあるものなのか客観視出来るようになります。また、自分の行動や結果が、相手にも好影響を与えることを認識できます。

教室では単なる技術に走るのではなく、「褒める気持ちをきちんと伝える」、そのために子供たち一人ひとりどのような褒め方が適しているのか、常に考えながら接するように心がけています。

教室の風景

それぞれに違う“嬉しいポイント”

嬉しいという感情は、感じるタイミングに違いはあったとしても、年齢に関わらず誰にでもあるものです。私の場合、レッスン中に子どもたちが嬉しそうな表情をみせてくれるとテンションが上がります。いつもその顔が見たくて、課題の内容や説明の仕方をその子仕様で考え続けています。無邪気なその笑顔は、何とも言えない幸せな気持ちにさせてくれます。しかもそのタイミングが私にとってはちょっと意外だったりすると、得したような気がして嬉しさ倍増(^o^)vです♪

この前も、鯉のぼりを作っていた男の子が、思わぬ理由からイイ顔を見せてくれました。まず、4匹の鯉のぼりが泳ぐ大きな作品が完成しました。発表の時間まであと5分あったので「かぶとも作って見ない？」と提案してみました。「かぶとは保育園で作ったからいいの！」と最初は言っていました。よくよく聞いてみるとそれは紙で作ったものとのことでしたので、ブロックのかぶと作りに残りの時間で挑戦することになりました。そうは言っても残るは、5分。完成は難しいかなと思いましたが、彼の驚くべき集中力によって次々にブロックは組み立てられていき、かぶとも完成させることができました。

その時、私が言った「難しいって言ってたのにがんばってスゴイじゃん！ちょうど発表の時間だし」という言葉の中に彼の“嬉しいポイント”があったようです。私は単純に「難しいと言っていたものを完成させることができたこと」が“嬉しいポイント”なのかと思いましたが、その子にとっては「約束の時間ピッタリにできたこと」が嬉しかったみたいです。

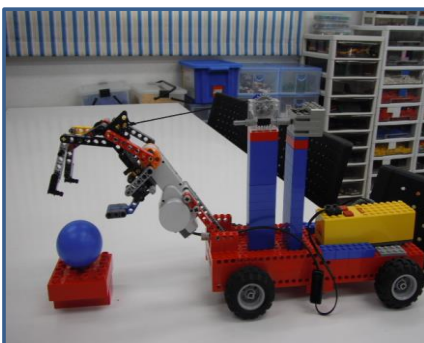
お母さんの話では、彼は段取りを守って物事を進めるのが好きなタイプのキッチリ屋さんなのだそうです。そういう考え方をする子もいるんだなあ、と私にとっては新鮮な発見となりました。

みんなのタイプを見極めてレッスンに活かそうと、レッスン中のおしゃべりや製作のパターンから情報を集めているのですが、それだけでは見えてこない部分もあります。そうした部分についてはお父さん、お母さんに教えていただけたらと思っています。たくさんお話させてくださいね(^-^)



インストラクター 清水 倫子

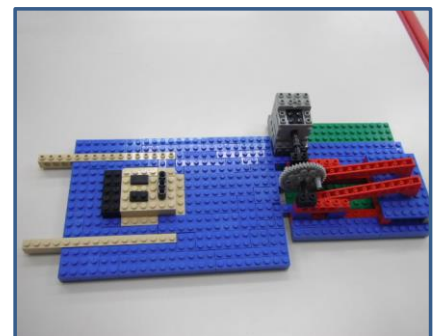
今月の作品紹介



☆ロボットハンド☆
ボールをつかめる位置へ移動し、ボールをしっかりつかむことができます！！



☆橋☆
良く見ると、橋のところに信号機があったり、横断歩道を子供たちが手を挙げて通行していたりします。



☆バタ足☆
てこの学習から発展させました。背泳ぎをする人の足を表現しています。